

時間割コード	G2B40201	開講年度	2026				
授業題目	世界の音楽				担当教員	濱崎 友絵	
英文授業名	Introduction to World Music						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限	対象学生	全
講義室	共通教育 5 6 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	大学D P						
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				⇔	世界の多様な音楽や文化にかんする基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム	グローバルコア人材養成コース ・ B A S I C (国際理解)						
(4)授業の概要	本授業は「音楽とは何か」という根源的な問いから出発し、音・楽器・声・リズム・宗教・国家・身体・模倣と創造といったトピックを手がかりに、世界の多様な音楽文化を横断的に考察するものである。音楽を文化的・社会的現象として捉え、その在り様を知ること、世界の多様な音楽や文化にかんする基本的な知識を体系的に身に付けるとともに、音楽、ヒト、社会の関係性を多角的に理解することを目指す。						
(5)授業のキーワード	芸術、音楽、多文化理解						
(6)授業計画	1.音楽を「世界」から考える：この授業で何を学ぶのか 2.音を文化として聴く：「音楽」とは何か 3.「楽器」とは何か 4.楽器の生と死：伝統・消滅・発明 5.「～風」はどのように作られるか：音階・旋法・スタイル 6.リズムと時間 7.「声」を考える 8.宗教と音楽①：キリスト教世界 9.宗教と音楽②：イスラーム世界 10.国家と音楽 ①：日本 11.国家と音楽 ②：トルコ 12.踊りと音楽：身体から見る音楽 13.模倣と創造①：日本のポピュラー音楽 14.模倣と創造②：グローバル・ポピュラー音楽 15.総括：音楽から世界を見る、授業アンケート 16.期末テストおよび解説						
(7)成績評価の方法	期末テストによって評価する。 ※ただし、授業の展開状況によっては変更の可能性がある。						
(8)成績評価の基準	授業で解説した同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、授業で解説した例題等からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価する。						
(9)事前事後学習の内容	授業では関連するテーマの副読本を指定、またはeALPS上に掲載する。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	視聴覚資料を多用するので、毎回の出席が重要となる。 なお、授業時間外学修については、当日の配布資料をベースに、授業で扱った文化圏の音楽や演奏家の映像・音楽をインターネット動画などを活用しつつ予習・復習をしてほしい。						
(11)質問,相談への対応	質問は授業終了後、随時受け付ける。 メールでも可。t-hamazaki@shinshu-u.ac.jp						
(12)授業への出席	本授業は、「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席し,補充を受けた場合を含み,欠席回数が4回以上になると,授業の達成目標に到達することができないため単位が認定されない。授業の出欠は,出席確認システムのみでおこなう。なお,不正な出席登録があった場合は単位を認定しない。授業開始後20分までは遅刻,それ以降は欠席とする。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」に該当する場合であっても,長期入院等で複数回にわたり出席できず,4回以上対面授業に出席できない場合は,授業の達成目標に到達に至る教育の質を担保することができないため単位認定はできないので留意されたい。						
【教科書】	とくに指定しない。						
【参考書】	柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽』ISBN-13: 978-4276135314、音楽之友社、1999年、2100円 その他、参考文献については授業中に適宜、紹介する。						